



第15回 日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第15回日本小児がん看護学会学術集会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、2017年11月9日(木)～11日(土)に、ひめぎんホール(愛媛県民文化会館)で開催いたします。学術集会のテーマは、「子どもと家族が歩む道をともに拓く」です。困難を乗り越え未来に向かって進む子どもと家族の姿に寄り添いともに歩む、といった看護者の役割や支援方法を問い直す機会にしたいと考えております。どうぞ、愛顔のあふれる愛媛にお越し下さい。

第15回日本小児がん看護学会学術集会会長
愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻 薬師神裕子

平成28年度 日本小児がん看護学会 組織・体制

理事・監事

理事長：内田雅代
副理事長：石川福江、上別府圭子
理事：石川福江、井上玲子、内田雅代、小川純子、小原美江、上別府圭子、鋤持瞳、塩飽仁、竹之内直子、田村恵美、富岡晶子、野中淳子、平田美佳、前田留美
監事：小倉美知子、藤原千恵子、丸光恵、森美智子

組織体制

下線：委員長/事務局長
将来計画委員会：内田雅代、石川福江、井上玲子、上別府圭子、塩飽仁、田村恵美、野中淳子
教育委員会：竹之内直子、小川純子、鋤持瞳、込山洋美、荒井由美子、柴田映子
編集委員会：上別府圭子、前田留美、岩崎美和、小林京子、佐藤伊織、東樹京子、古谷佳由里
国際交流委員会：小川純子、河上智香、平田美佳、山下早苗
ケア検討委員会：小原美江、竹之内直子、平田美佳
学術検討委員会：上別府圭子、内田雅代、小原美江、佐藤伊織
広報委員会：塩飽仁、井上玲子、小川純子、田村恵美、前田留美
研究助成委員会：塩飽仁、田村恵美
会計：石川福江、富岡晶子 **庶務**：野中淳子
事務局：岡澄子、米山雅子
合同学会プログラム委員：石川福江、内田雅代、小川純子、小原美江

<学会事務局より>

日本小児がん看護学会事務局は、平成29年1月から下記に移転いたします。また、会員管理事務局は、平成28年度より下記に移転(外部委託)しております。併せてお知らせいたします。

■学会事務局■
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻家族看護学分野内
FAX: 03-5841-3694 E-mail: office@jspon.com
■会員管理事務局■
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-1 第2ユニオンビル4F
FAX: 03-5981-9852

小児がん看護学会誌編集委員会より

<第14回学術集会総会後に 研究奨励賞授与式を行います！>

平成26年度より研究奨励賞の授与が始まりました。研究奨励賞は、過去3年分の学会誌に掲載された論文から、毎年、選考委員会による厳正な審査と理事会での承認を経て決定されます。今年度、第3回の受賞者が決定しました。学術集会総会後に研究奨励賞授与式が行われますので、皆様ふるってご参加ください。

(総会は12月16日(金)17時～18時
アネックスタワー5階第5会場(霧島)で行われます。)

<研究奨励賞 第2回受賞者のお知らせ>

平成27年度の受賞者は以下3名で、第13回学術集会総会後に内田雅代理事長より賞状および副賞が授与されました。おめでとうございます。

◎飯田純子殿、住吉智子殿 (Vol.8, 17-26, 2013)
「小児がん経験者の闘病体験とレジリエンスとの関連性」

◎畑江郁子殿 (Vol.8, 27-36, 2013)
「小児がん治療を終了した青年の病気体験」

<編集事務局移転のお知らせ>

毎年9月に発行している学会誌「小児がん看護」では、会員の皆様から投稿を、年間を通じて受け付けております。1月末までに投稿いただいたものは、その年の9月(次年度はVol.12)に掲載予定です。日々の臨床実践から得られた知見や、研究の成果を是非、投稿してください。投稿規定は学会誌や学会ウェブサイト(<http://www.jspon.com>)で確認いただけます。

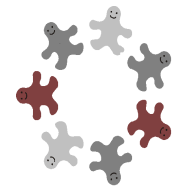
原稿の送付先でもある編集委員会事務局が、平成29年1月から下記に移転いたします。編集委員一同、皆様からの投稿をお待ちしております。

■編集委員会事務局■ ※平成29年1月より
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学大学院小児看護学研究室内
FAX: 03-5550-2296 E-mail: ed-office@jspon.com

日本小児がん看護学会ニュースレター担当

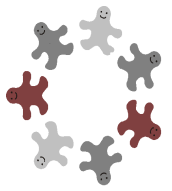
淑徳大学看護学部 小川純子
東海大学健康科学部 井上玲子
筑波大学付属病院 田村恵美

[連絡先] 〒259-119 神奈川県伊勢原市下糟屋143
東海大学健康科学部看護学科内
E-mail: rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.24



第2期がん対策基本計画の策定により、小児がん拠点病院が機能し始めて、まもなく4年が経ちます。この間に、各拠点病院や連携病院の環境は少しずつ改善がみられ、看護の活躍が多方面から報告されています。本学会は、小児がんの子どもと家族の療養生活環境がより向上し、小児がん看護がより発展していくために活動していきたいと思っております。

さて、今回のニュースレターでは、12月16日～12月17日に開催される、第14回日本小児がん看護学会のご案内に加え、第13回小児がん看護研修会、SIOP2016の報告などご報告いたします。

第14回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第14回日本小児がん看護学会学術集会を第58回日本小児血液・がん学会学術集会、第21回がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに品川プリンスホテルで開催いたします。

小児がん看護学会のテーマは「小児がんの子どもと家族の力をささえる」としました。2013年には「小児がん拠点病院」15施設が稼働し、小児がんの診療体制は充実してまいりました。今回は基本に戻り、発症初期における子どもや家族との信頼関係を構築し、子どもと家族の力をささえ過酷な長期にわたる療養生活の質の向上を求めて企画してまいりました。

特別講演には、ノンフィクション作家の柳田邦男先生に絵本からの学びをひも解いていただきます。子どもの権利条約はポーランドの小児科医コルチャック先生の精神を受け継いでいます。柳田先生はこのコルチャック先生の絵本の翻訳も手掛けておられます。絵本の紹介をしていただきながら、絵本の力で子どもと家族をどのようにささえていけるのか考える機会になればと思います。この柳田先生の講演は、参加者全員が聴講できるように配慮し最終日の最後に一般公開としています。

教育講演はイギリスのFaith Gibson先生をお招きし、子ど

テマ：小児がんの子どもと家族の力をささえる	会場：品川プリンスホテル
開催期間：2016年12月15日(木)～12月17日(土)	
海外招聘講演：子どものエンパワーメント 同時通訳 演者 Faith Gibson 先生 (Great Ormond Street Hospital For Children & South Bank University)	12月16日(金曜日)
教育講演：子どもと家族のレジリエンス 演者：藤原千恵子先生(武庫川女子大学看護学部)	
シンポジウム：診断時から子どもと家族の力をささえる	
学術交流セミナー：看護研究 すき？ ぎらい？ —あなたの声を聞かせてください— (学術検討委員会)	
教育セッション：がん対策基本計画と小児がん看護のこれから	
日本小児血液がん学会との合同シンポジウム：笑顔のたね	
特別講演：悲しみにこそ意味が ～絵本はいのちの伝道師～ 一般公開 演者 柳田邦男先生(ノンフィクション作家)	12月17日(土曜日)
ワークショップ：1. 明日から使える看護の技 —家族とのかかわり方— (ケア検討委員会) 2. 小児がんの子どもと家族の日頃のケアを見直してみませんか？—看護ケアの実情・課題の共有とよりよいケアの実現に向けて—	
教育セッション：小児がん診療病院とピアサポーターとの協働	
看護ランチョンセミナー：医療を受ける子どもの痛みへのケアと工夫 (CLS)	3団体合同公開シンポジウム：わたしのグリーフ

SIOP2016の報告

ダブリン（アイルランド）にて2016年10月19日～22日の日程で、SIOP 2016が開催されました。今年も、学会の前に病院見学のツアーを組み、小児病院・大学・ホスピスを見学しました。見学ツアーの詳細は、学会会場と学会誌で報告させていただきます。

Educational day（10/19）では、「小児がんの支持療法」「口内炎：口内炎の評価スケールとレーザー医療における最近の知見」「小児がんにおける発熱性好中球減少症：診断・治療・栄養的サポート」「支持療法における意思決定支援」「妊孕性」に焦点があてられていました。2018年に京都で開催されるSIOPでのeducational dayでは、開催国の希望でテーマを決めて良いとのことなので、是非海外での動向を知りたいテーマがある方は、国際交流委員会(junogawa@soc.shukutoku.ac.jp:小川)までご連絡ください。国内の看護師さん達にも沢山参加していただきたいので、同時通訳の方向で検討中です。

今年の看護職のSIOP参加者は8名で、日本からの看護の発表は、ポスター4題でした。看護セッションは、「小児がんにおけるQOLと看護ケアの質」「子どもの、親、看護師への教育」「小児がん領域における看護師の様々な役割」「症状マネジメントとE-Health」「子どもの親の為の情報とコミュニケーション」「小児がん看護における親の看護師の為の倫理的変革」の6つテーマで行われました。また、看護職と親の会との合同セッションでは、「小児がんと診断された思春期の患者さんへのBad Newsの伝え方：全部伝える？ それとも 選択して隠す？」がテーマでした。思春期の患者さんが病気を自分の事として受け止め、立ち向かっていくためには隠さず全てを知らされる必要があるとの意見が多かったです。会場にいたAYA世代の小児がん経験者が、「親が自分のことを心配してくれるのは分かるけれど、自分の事なので全て知りたい」「知りたいか知りたくないかの決定を自分たちにさせてほしい」など、活発な意見が出ていました。全体のシンポジウムでも「小児がんの子どもへの心理社会的ケアのスタンダード」について取り上げられたり、Keynoteで「小児がん治療を受けている子どものレジリエンスを育む」など、心理面・社会面と言った子どもの発達に欠かせない視点に焦点があてられていたので、とても多くの学びがあった学会でした。（小川純子）



Pro. Christina Baggott（左、SIOP看護部会長）とMs. Frieda Clinton（右、アイルランドの看護の責任者）と一緒に

SIOP2017のお知らせ

SIOP2017は、10月12日～15日の日程でWashington D.C.で開催されます。来年は、ワシントン小児病院(Children's National Medical Center)にて、1日または2日間の研修を計画する予定です。逐次通訳が付きますので、興味のある方は是非ご参加ください。特に臨床の方々のご参加をお待ちしています。詳細が決まりましたら、3月頃までに学会のHPにてお知らせします。<http://www.siop2017.kenes.com/> SIOP2018は京都(2018年11月17日～19日)です。皆様是非発表もお願いします。

小児がん看護専門性向上研修が開催されました

2016年10月19日(水)～10月21日(金)、日本看護協会看護研修学校(清瀬)にて「小児がん看護専門性向上研修」が開催されました(表)。今年は3回目の開催であり、全国21都道府県から、小児がん看護に従事する看護職52名が参加されました。参加者は管理職を含め多くのスタッフナースが参加されました。また小児看護専門看護師や小児・がんの近接領域の認定看護師など多彩なメンバーが出席されました。

今年のプログラムは、初日に小児がん対策に関する内容と小児がん医療・看護概論の講義にはじまり、2日目以降は、小児、家族、リエゾンの専門看護師らによる小児がん看護の各論や近年の課題である長期フォローアップやAYA世代に関する講義、緩和ケアが取り入れられました。参加者の方々は、拠点病院または連携病院の看護師としての役割として、現在抱えている課題を解決するために受講していました。今後も、多くの方々が研修に参加できる仕組み作りが望まれます。（井上玲子）

内 容	
10/19 (水)	小児がん対策の動向と看護 小児がん看護概論 小児がんの治療と病態 小児がんの晩期合併症と長期フォローアップ・AYA世代への対応と・実際
10/20 (木)	小児がん看護における症状マネジメント 小児がん患者と家族看護 小児がん患者と家族への緩和ケア 小児がん患者家族のトータルケアに関する演習
10/21 (金)	小児がんの長期フォローアップの実際 AYA世代が抱える課題と看護の実際 小児がん看護と社会資源の活用・応用 小児がん患者家族のトータルケアに関する演習



第13回 小児がん看護研修会に参加して

平成28年8月20日土曜日に、国立成育医療研究センターにおいて第13回小児がん看護研修会が開催されました。当日は台風による大雨でしたが、73名(会員：35名、非会員：36名、学生：2名)の参加がありました。

今年度は、メインテーマを『思春期患者の意思決定を支える看護』とし、午前中は、3名の講師による話題提供と講義で、午後はグループ討議を行いました。

午前中の講義・話題提供について、最初に、話題提供として2名の講師より実践的な内容と事例の提示を頂きました。話題提供①として、静岡県立がんセンターの津村明美氏より『AYA世代がん患者の意思決定を支える看護』として、静岡県立がんセンターのAYA世代病棟における看護実践について事例を通して講演頂き、看護のポイント等のまとめを頂きました。続いて話題提供②として、国立成育医療研究センターの思春期内科病棟で勤務している鈿持瞳氏より、国立成育医療研究センター小児がんセンターにおけるチーム医療の現状の紹介とともに、3名の事例からチーム医療の機能や看護の実際を紹介して頂きました。最後に、高知県立大学の有田直子先生より『思春期にあるがんの子どもの特徴と意思決定支援』について講義頂きました。

午前中の講義を聞く中で「患者自身が今後の治療を選択していく過程で何を大切にしながらどう過ごしていくかを多職種で話し合いながら治療計画を立てていく」ということが重要であると感じました。普段、患者さんに対し、「できること」「やらなければならないこと」等、自分たちの思いが先行してしまう傾向にあることに気づき、患者さんの「今、起きていることや大切にしたいこと」まで考えていくことが不足していると自己の看護を振り返りました。また、豊富なデータをもとに思春期にある患者さんの特徴や看護の視点を提示していただき、思春期患者に対する理解を深めるとともにチームで共有することの重要性を改めて認識することができました。

GWでは、成人でも小児でもないことが特徴であるAYA世代の患者さんを看護する上で、自分たちが、普段、思春期の患者さんに接する際に、感じている困難感を参加者とともに共有し、看護で工夫していることや、コミュニケーションのコツ等を聞いたり、他の施設のチーム医療の現状を聞くことができました。自分の看護を振り返り、自分自身の発想の転換になったことが、今回の研修の学びです。(国立研究開発法人国立成育医療研究センター 荒井由美子)

CNSのまめ知識

今回は、ELNEC-Japan(ELNEC-J)コアカリキュラム看護師教育プログラムを紹介します。The End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC)は、2000年にアメリカ看護大学協会(American Association of Colleges of Nursing: AACN)とCity of Hope National Medical Centerが共同して設立した団体です。ELNECは、エンド・オブ・ライフ・ケア(EOLケア)や緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的な教育プログラムを開発しています。

日本では2007年より翻訳を始め、2009年度より、日本緩和医療学会の事業としてELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラムが開始されました。さらに、2011年には日本の社会や医療の現状を踏まえて、より日本の実情にあったEOLケアにするために改訂されています。以降2年に一度、指導者用ガイドを見直し、必要に応じて改訂を行っています。2016年10月までに1630名のELNEC-J指導者が誕生しています。

ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの目的は、すべての人々へ質の高いEOLケアを提供できるように、知識・技術を習得することです。このため対象者は、看護実践の場面において単独で看護を提供でき、かつ、チームリーダー的役割や責務を認識し遂行できる看護師です。また、自己の学習課題に向けた学習活動を展開できる力も求められています。

プログラムの内容は、以下の10のモジュールで構成されています。

- Module 1: EOL ケアにおける看護
- Module 2: 痛みのマネジメント
- Module 3: 症状マネジメント
- Module 4: EOL ケアにおける倫理的問題
- Module 5: EOL ケアにおける文化への配慮
- Module 6: コミュニケーション -患者の意思決定を支えるために-
- Module 7: 喪失・悲嘆・死別
- Module 8: 臨死期のケア
- Module 9: 高齢者のEOL ケア
- Module 10: 質の高いEOL ケアの達成

2016年4月までに、ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムを受講した看護師は17,608人にのぼります。私も3年前に受講しましたが、小児がん看護分野においても学びを実践に活かせると感じました。

ELNEC-Jコアカリキュラムに関する詳しい情報は、以下の日本緩和医療学会のホームページにて案内されていますので是非ご参照下さい。

<http://www.jspm.ne.jp/elhec/elneclist.html>

京都大学医学部附属病院 小児看護 CNS
川勝和子